

四国大学研究ブランディング事業（愛称：SUBARU事業）
（Shikoku University-Brand Accumulation as Research University）

事業報告書

（平成29年度～令和元年度）

藍の知の拠点

「阿波藍」の新たな価値創造を目指した

文化的・科学的研究及びその魅力発信・人材育成拠点の構築

人が集まる「人」をつくる、大学。



SHIKOKU UNIVERSITY

四国大学

SUBARU事業による「藍の知の拠点」構築と今後の展開

四国大学 学長
SUBARU 事業推進本部長
松重 和美

平成29年11月、四国大学は文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択され、「藍の知の拠点」の構築を目的に、①藍文化の伝承と体系化、②藍の栽培方法と染め技法の技術開発、③藍の科学的分析、そして④藍を活かした新たな産業の興隆の四つのテーマを掲げ、五か年計画で調査・研究を開始し、数多くの実績をあげてきました。

一方、2020東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムとして、野老朝雄氏（現在、本学特認教授）デザインの“藍色組市松紋”が採用されたことを受け、徳島県は平成29年に「とくしま藍の日を定める条例」を定め、7月24日（オリンピック開会式）を“とくしま藍の日”、そして藍の色を“徳島県の色”としました。さらに、令和元年には、「阿波藍」が文化庁の日本遺産に認定され、徳島の藍にこれまで以上の関心が集まってきています。SUBARU事業としても、令和元年7月に「藍国際フォーラム」を開催し、米国、台湾及びキルギス共和国からの藍に係わる招待者を含め240名を超す教育・研究関係者、市民の方々の参加のもと、「阿波藍」の魅力の再認識とともに藍の国際的情報発信が出来ました。

本事業は当初の計画以上に順調に進行していますが、平成30年度末文部科学省から本事業の実施期間を5年から3年に短縮する方針が急に示され、結果的に令和元年度が支援事業の最終年度となりました。四国大学では地域の貴重な文化・産業資源である藍に関する教育・研究・地域貢献、そして国内外への広報活動を引き続き行っていくことは徳島に位置する大学として非常に重要なミッションでもありと考え、本研究ブランディング支援事業終了後も学内外との連携のもと自走して継続する意向です。

ところで、四国大学の藍染教育研究施設「藍の家」の設置は平成3年であり、令和3年に30周年を迎えます。また、この令和3年はSUBARU事業の当初計画での最終年度でもあり、本施設を「藍の知の拠点：四国大学」の中核拠点と位置付け、これまでの活動を自立的に継続・発展させていく計画です。

最後になりますが、県内の自治体、企業、市民団体、本学の教職員、そして全ての関係者の皆さまには、これまでの本学の取組みに対して頂いたご理解・ご支援に心より感謝致しますとともに、今後とも密接に連携して、「藍の知の拠点」として人材育成、情報発信、そして地域の活性化等に貢献できるよう取り組んでいく所存ですので、ご支援の程どうぞ宜しくお願い致します。



目次

I. 事業概要	1
II. 事業報告	3
1. 藍文化の体系化(歴史)	3
(1) 藍関係古文書の調査・デジタル写真化・解読	3
① 高橋家文書(名西郡石井町高原)	
② 林直大家文書(名西郡石井町石井)	
③ 武知毅家文書(名西郡石井町高川原)	
④ 撮影文書の解読(高橋家文書・林家文書)	
(2) 藍絵巻「藍農工作之風景略図」(石井町教育委員会蔵)	7
写真撮影・複製・出版	
2. 藍文化の体系化(藍染)	8
(1) 「藍の家」所蔵藍染作品及び藍関連資料のデジタルアーカイブ化	8
3. 藍の栽培方法と染め技法の技術開発	9
(1) LED植物工場での藍栽培	9
(2) 沈殿藍の生産と利用	11
4. 藍の科学的分析	17
(1) タデアイ葉の機能性成分	17
(2) タデアイ葉の安全性確認	20
(3) SUブルー(四国大学ブルー)の提案	21
5. 藍の知の拠点化	23
6. 藍の情報発信(「藍国際フォーラム」)	26
III. 活動報告	39
1. 平成29年度	39
2. 平成30年度	41
3. 令和元年度	49

I. 事業概要

「文部科学省私立大学研究ブランディング事業」とは、学長のリーダーシップのもと、大学の特色ある研究を基軸として全学的な独自色を大きく打ち出す取組みを行う大学に対し、施設費・装備費・経常費を一体的に文部科学省が支援するもので、【社会展開型】のタイプAと【世界展開型】のタイプBがあり、本学は【社会展開型】タイプAで採択された。

タイプA【社会展開型】とは、地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する取組みを通して、地域で輝く大学を支援するものである。

「四国大学研究ブランディング事業(愛称:SUBARU事業)」は、「『阿波藍』の新たな価値創造を目指した文化的・科学的研究及びその魅力発信・人材育成拠点の構築」を研究テーマとし、研究・地域貢献大学(藍の知の拠点)としてのブランド力向上を目指すものである。

この報告書は、文部科学省による「私立大学研究ブランディング事業」の選定校に対する支援期間が、5年から3年に短縮されたため、3年目にあたる令和元年度までの事業実績についてまとめたものである。

四国大学研究ブランディング事業

愛称 : SUBARU事業

(Shikoku University-Brand Accumulation as Research University)

目的 : 阿波藍に関する教育研究実績を継承・発展させ、産学公連携研究推進による四国大学のブランド向上を目的に推進

組織 : SUBARU事業推進本部(本部長:学長)を中心に事業を展開

藍の家(1991年4月設立)

新あわ学研究所(2017年6月設置)

阿波藍文化研究室(2019年4月設置)

目標 : 「阿波藍」の新たな価値創造を目指した文化的・科学的研究及びその魅力発信・人材育成拠点の構築

目標とする研究ブランド : 阿波藍の知の拠点化を図る先進的地域貢献大学

実施計画(当初案) :

平成28年度	事業本部立ち上げ
平成29年度	SUBARU事業本格開始、四国大学附属新あわ学研究所設立
平成30年度	研究実績・内容等の確認と新規格の立案
令和元年度	中間評価、藍に関する国際フォーラム開催
令和2年度	東京オリンピック・パラリンピックで Japan Bleu を発信
令和3年度	総括、最終評価・事業継続、発展策の検討

SUBARU事業概念図

